

真理を求め努力を惜しまぬ生徒 互いを認め合う思いやりのある生徒 心身ともに健康で責任を果たす生徒



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第11号
R8年 1月30日発行
文責・編集・発行：教頭



1月に入り、浜頓別町でも地震が頻発しています。宗谷南部において、震度1以上を観測した揺れが、1月12日～21日の期間に31回もあったそうです。浜頓別中学校では、今年度と昨年度、地震・津波を想定した避難訓練を実施しています。ご家庭においても、「シェイクアウト」の基本行動である

- ①DROP！（まず、姿勢を低く！）
- ②COVER！（頭を守る！）
- ③HOLD ON！（動かない！）

【稚内地方気象台HP】



を意識していただけたらと思います。本校の防災計画では、以下を基準として避難等を行います。

- ・軽微地震（目安として震度0～3程度）・・・教員が余震を警戒しながら授業を再開する。
- ・中規模地震（目安として震度4～5程度）・・・その後の校内放送の指示に従う。
状況を確認し、避難の必要性を判断する。
- ・巨大地震（目安として震度6以上）・・・その後の校内放送の指示に従う。
教員は避難路の確保に努め、避難をする。

地震の頻発によって緊張感のある生活が続きますが、しっかり準備して落ち着いた行動を心がけましょう。

冬休みは閉けて・・・



冬休み明け全校集会
工藤さんが、冬休みの過ごし方の振り返りについて話をし、明石校長が、立ち上がる力について話しました。



中頓別町の寿スキー場で行われている1, 2年生のスキー授業の様子



総合的な学習の時間 報告会



1月23日に
役場2階にて
行われました。
自分たちがや
ってきたこと
を堂々と発表
しました。

AIと共存する社会

とある記事では、AIと比べて、人間に優位性があるものとして、以下のようなものが紹介されていました。

- ①志を抱く能力～何を目指すのかを選択する力
- ②判断力～価値観や社会的規範から、正しいかどうかを判断する力
- ③真の創造性～既存の発想や枠組みにとらわれず、新しいアプローチにたどり着く力



AIに「AIが活用されている社会」というテーマで生成してもらいました。

浜中HPはこちら



転んだら立ち上がればよい

校長 明石 貴宣

2026年が始まりました。今年もよろしくお願いします。午年は飛躍の年とされていますので、浜頓別中学校としても飛躍の1年にしたいと思っています。

また、今年は間もなく開幕するミラノ・コルティナオリンピック冬季大会をはじめ、野球のWBC、サッカーのワールドカップなど世界的に大きなスポーツイベントが開催される年でもあります。

個人的には冬季オリンピックのスピードスケートに注目しています。前回メダリストで幕別町出身の高木美帆選手や別海町出身の森重航選手、また、チームパシュートに期待がかかっています。前回の北京大会、女子チームパシュート決勝で高木菜那選手が転倒し、惜しくも優勝を逃して銀メダルを獲得したのは記憶に新しいと思います。スピードスケートに転倒はつきものです。なにしろ厚さ約1mmのブレードで体を支え、最高時速は60km/hにもなるので、ちょっとしたことで転倒する可能性があります。そうした極限の中でのパフォーマンスだからこそ、競技として成立するとも言えます。

冬休み明けの全校集会でも生徒にこの話をしました。そこで問いかけたのは「転んだらどうすればいい？」です。答えはシンプルで「転んだら立ち上がればよい」というもの。

人間は多かれ少なかれ、失敗したり、つまづいたり、転んだりするものです。挫折と言い換えてもいい。でも転びっ放しでは前に進めません。転んだら立ち上がる、失敗したらやり直す、次にどうするか考える。未来に向かう生徒には、そんな回復力を身に付けてほしいと思っています。ちなみにこの回復力は、レジリエンスというビジネススキルとして、社会的にも注目されています。

この1年間「失敗を恐れず挑戦できる環境づくり」に取り組んできましたが、次の段階として「転んだら立ち上がる力を身に付ける」ことで、より一層成長につながるのではないかと考えているところです。

『7回転んでも8回起きる』。近々発行される高木菜那さんの著書のタイトルです。北京オリンピック後に引退し、筑波大学大学院を卒業、現在もTV等で活躍している彼女の様子を見ると、回復力のキーワード「しなやかさ」を実感します。著書もぜひ読んでみたいと思います。